

成範卿家しげのりきやうのいへ

〔桜町中納言と号す、少将言信西の息男、小督局こがうのつぼねの父なり。姉小路室町と云云、今旧趾詳ならず〕

長門本平家物語云 成範卿しげのりを桜町さくらと申ける事は、かの卿桜を殊に愛し給ひて、姉小路室町の宿所に、惣門の見入より西東の町を懸て並木の桜を植通されたりければ、春の朝遠近人異名に此町をば桜町とぞ申ける。又ひたすら花に心を移し、花の陰にて守り明されければ、桜本中納言とも申、過ゆく春を悲み来れる春を悦び、桜を待し人なれば桜待中納言さくらまちゆうなごんとぞ詔には下されける。

源平盛衰記云 此町を樋口町ひぐちの桜町と申けり。殊に執し思はれける桜あり、七日に散る習を堪ず思はれけん、春毎にま

づ泰山府君たいざんふくんを祭れけるうへ、天照御神あまてるおんかみに祈申させ給ひければ、其験にや三七日まで梢に名残ぞ残りける。さればこそ思ひつゞけ給ひける。

ちはやふるあら人神の神たれば花もよはひをのびにけるかな

飛鳥井あすか

〔万里小路まてのこうち二条の南、東側人家の裏にあり。清冷にして古へより名水と賞す〕

風 雅 あすか井の春の心はしらねどもやどりしぬべき花の陰かな 前参議為実

拾遺愚草 いかでなを我手にかけてむすびみん只飛鳥井あすかの影ばかりだに 定 家

三條右大臣家さんでうだいじんけ〔定方卿なり。拾芥抄云、三條坊門の北万里小路の西と云云〕

三條右大臣家の屏風に

続千載 春立て子日になればうちむれていづれの人か野べにござらん 貫 之

法泉寺ほふせんじ〔万里小路までのをし押小路の南、虎石町とらいし東側にあり、東本願寺に属す。本尊阿弥陀仏は慈覚じかく大師の作、立像三尺許。

原は天台宗、封境方一町にして善法院角之坊と号し、親鸞しんらん聖人の舎弟深有僧都の住職し給ふ所なり。舎兄そのかみ聖人関東より上洛の後、時々此寺に来つて大乘易行の法流を弘め給ふ、満齢九十歳の時遷化し給ふも此地なり。故に聖人旧跡の一員とす、聖人滅後今宗となる〕

〔本願寺伝記に曰、禪房は長安馮翊の辺、押小路の南万里小路の東と云云〕

法泉井ほふせんのみ〔当寺の庭中にあり。往昔親鸞聖人止住の時、此井を掘らしむるに水底に石あり、これを引揚るに形虎の臥に似たり。故に聖人銘して虎石とらいしとなづく。今東大谷祖廟の上にあり、前編に委し。町号此石より起り、寺号此井より起る〕

願楽寺ぐわんげうじ〔同町西側にあり、東本願寺に属す。初めは江州矢島にありて北道場といふ。本尊阿弥陀仏、開基は佐々木

家の支族青地左衛門尉頼方法体し正願と号し、蓮如上人の弟子となる〕

三天儀さんてんぎ

〔当寺の什宝なり。享保年中、檀越に佐々木源慶安みなもとのおよしやすといふ人あり、和歌を善し又天文に精し、嘗て聖徳太子の練達し給ふ本朝天文の奥儀を伝へ、景を測り左旋右旋の運光を形にあらはし、渾天儀こんてんを本朝に移してこれを三天儀と号す。慶安歿後遺言により、かの祖佐々木扶義もちよしの木像と共に当寺に寄附す、是願樂寺の祖と同姓の由縁なり。毎年冬至の日、三天儀を出し天文を講説し諸人に見せしむ。慶安述作けいあんの書本朝天文志十卷あり、世に行る〕